基準4 学生の受入

	優れた点	更なる向上が期待される点	改善を要する点
平成24			◎　教育学研究科においては入学定員超過率が高く、特別支援教育専攻科においては入学定員充足率が低い。（京都教育）
平成25	◎　平成23年度に専任教員を配置したアドミッションオフィスを設置し、入試全般にわたる分析・検証を行い、入学者選抜の改善を進めている。（室蘭工）		◎　博士後期課程については入学定員充足率が低い。（室蘭工）
	◎　ウィンター・サイエンスキャンプ等、様々な取組により、全国各地から入学生を受け入れている。（北見工）		◎　大学院工学研究科（博士後期課程）においては入学定員超過率が高い。（北見工）
	◎　入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）において、「求める学生像」、「入学前に身に付けておいてほしいこと」に加えて「入学者選抜の基本方針」が明確に定められている。（弘前）		
	◎　工学部では平成24年度入学試験から、推薦入試において被災者特別選抜を実施している。（岩手）		
	◎　教育文化学部では東京に、工学資源学部では、東京、名古屋にも試験会場を設置し、多方面からの学生の受入を行っている。（秋田）		◎　大学院課程の多くの研究科においては、入学定員超過率が高い、又は入学定員充足率が低い。（秋田）
			◎　大学院課程の一部の研究科においては、入学定員充足率が低い。（山形）
			◎　大学院課程の一部の研究科においては、入学定員超過率が高い。（東京農工）
			◎　大学院課程の一部の研究科においては、入学定員超過率が高い。（信州）
			◎　入学定員と実入学者数の関係は、大学院課程の一部の研究科において入学定員超過率が高い、又は入学定員充足率が低い。（岐阜）
			◎　学士課程の一部の編入学及び大学院課程の一部の研究科等においては入学定員充足率が低い。（京都）
			◎　博士後期課程においては、入学定員充足率が低い。（奈良女子）
			◎　大学院課程の一部の研究科においては、入学定員超過率が高い。（和歌山）
			◎　大学院課程の一部の教育部においては入学定員超過率が高い。（徳島）
			◎　大学院課程の一部の研究科においては、入学定員超過率が高い、又は入学定員充足率が低い。（総合研究）
			◎　マテリアルサイエンス研究科（博士前期課程／博士後期課程）については入学定員充足率が低い。　（北陸先端）
			◎　医学研究科修士課程の入学定員超過率が高く、医学研究科博士課程の入学定員充足率が低い。（奈良県立医科）
			◎　大学院課程の一部の研究科においては、入学定員充足率が低い。（沖縄県立芸術）
平成26	◎　入学者選抜方法の調査及び研究並びに入学者の追跡調査及び研究等を行い、その検証の成果を中心として入学センター活動報告書にまとめ、実際の選抜方法に反映させている。（旭川医科） ◎　入学者選抜において地域枠の募集定員を大幅に増員し、その結果について検証を行い、それに基づく改善を着実に行っている。（旭川医科） ○　個人面接・集団面接を利用した入試を行い、学力だけでなく多面的な評価方法での選抜を行っている。（旭川医科）		
	◎　全国で入試説明会を実施し、48校の高等学校を訪問するなどの結果、ＡＯ入試で優れた学生の獲得に成功しており、科学オリンピック入試や国際学士コース入試等、多様な入試方法を採用している。（東北）		◎　大学院課程の一部の研究科においては、入学定員超過率が高い、又は入学定員充足率が低い。（東北）
			◎　大学院課程の一つの研究科においては、入学定員超過率が高い。（福島）
	○　「検証シート」を導入することにより、入学者受入方針に沿った公正な入試の実施、学生の受入方法、入試実施体制及びそれらの検証等を可能とする体制がとられている。（千葉） ◎　先進科学プログラム（飛び入学）入試において、面接や課題論述試験に試験時間をかけるなど、受験者の適性を的確に把握できるよう選抜方法を工夫し、優れた卒業生を輩出するなどの実績を上げている。（千葉）		◎　大学院課程の一部の研究科においては、入学定員超過率が高い。専攻科及び別科においては、定員充足率が低い。（千葉）
			◎　大学院課程の複数の研究科においては、入学定員充足率が低い。（一橋）
	◎　グローバル化推進の一環として、英語による授業のみを履修して学士の資格を取得できる学部教育特別プログラムＹＣＣＳを設置し、特別入試を実施している。（横浜国立）		

基準4 学生の受入

	優れた点	更なる向上が期待される点	改善を要する点
			◎　大学院課程の一部の研究科においては、入学定員充足率が低い。（新潟）
	○　学校教育学部では、入学試験委員会の下に入学者選抜方法研究専門部会を設置し、毎年度、入学者選抜に関する詳細な検証を行い、報告書を作成し、具体的な提案を行うことにより、次年度以降の入学者選抜方法の改善に役立てている。（上越教育）		
			◎　大学院課程の一部の研究科においては、入学定員超過率が高い、又は入学定員充足率が低い。（金沢）
			◎　専攻科において、入学定員充足率が低い。（山梨）
			◎　大学院課程の一部の研究科においては、入学定員充足率が低い。（名古屋）
			◎　大学院課程の一部の研究科においては、入学定員超過率が高い、又は入学定員充足率が低い。（神戸）
	○　医学部では、鳥取県内の地域医療に貢献したいという強い意志を持つ者を積極的に選抜できる受入方法として、鳥取県の経済的支援の下に、地域枠、特別養成枠及び鳥取県看護職員養成枠を採用している。（鳥取）		◎　学士課程の一部の編入学においては入学定員充足率が低く、大学院課程の一部の研究科においては入学定員超過率が高い。（鳥取）
	○　全学組織アドミッションセンターを中心に、学生個々の入試成績と修学状況等の追跡調査・検証により内部質保証を行う全学システムが確立している。各学部は、同センターによる分析結果を踏まえて、入学者選抜の改善に取り組んでいる。（岡山） ◎　平成26年度に文部科学省の「大学教育再生加速プログラム」に採択されており、平成27年度入試から、全学部で国際バカロレア入試を導入している。（岡山）		◎　大学院課程の一部の研究科においては、入学定員充足率が低い。（岡山）
	◎　学士課程では、「選考方法の趣旨」や「アドミッション・ポリシー・チェックリスト」を作成・公開して、学科試験や小論文を課す理由、面接において確かめたい内容等を説明している。（愛媛）		◎　大学院課程の一つの研究科においては入学定員超過率が高い。（愛媛）
			◎　大学院博士課程については入学定員充足率が低い。（高知）
			◎　大学院課程の一部の学府においては、入学定員超過率が高い、又は入学定員充足率が低い。（九州）
	◎　大学教育イノベーションセンターのアドミッション部門では、入学者選抜の検証と変更の検討を行うための各種分析データを各学部に提供し、選抜方法の改善に活用している。また、個別学力検査で課す教科・科目の入試問題作成に関するＦＤや面接、小論文等の主観的な評価を伴う選抜手法の適切な設計と実施に関するＦＤを毎年度行うことで入学者選抜の妥当性と信頼性を高めている。（長崎）	◎　正解が唯一ではない問いに批判的・論理的にアプローチし、資料等を読み解いて論述を展開することを求める「批判的・論理的思考力テスト（総合問題）」の取組は、入学者選抜方法改革の新しい試みとして今後の検証が期待される。（長崎）	
			◎　大学院課程の一部の研究科において、入学定員超過率が高い。（宮崎）
			◎　大学院課程の一部の研究科においては、入学定員超過率が高い、又は入学定員充足率が低い。（鹿児島）
	○　毎年、全学生を対象として入試種別ごとに入学後の成績等の追跡調査資料を作成し、入学者選抜の改善に役立てている。（大妻女子）		◎　多くの学部の３年次編入及び博士後期課程において、入学定員充足率が低い。（大妻女子）